

●発行月 令和6年4月

●発行 岩手県立中央病院 地域医療福祉連携室 〒020-0066 盛岡市上田1-4-1 TEL 019-653-1151 (代)

●URL <http://www.chuo-hp.jp/>

### 「地域医療連携推進の基本方針」

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 顔の見える連携              | 5. 24時間救急受け入れ体制            |
| 2. 地域連携パスと逆紹介の推進        | 6. 地域医療福祉連携室を通じた地域包括型連携の推進 |
| 3. 紹介患者の迅速予約と優先診療       | 7. 高額医療機器の共同利用推進           |
| 4. PHSによるDr.Direct Call | 8. 地域医療研修センターの利用の推進        |

## 新年度に当たって

院長 宮田 剛

岩手県立中央病院院長の宮田剛です。いつも当院の運営にご協力いただき感謝申し上げます。令和6年度初めにあたりご挨拶を申し上げます。

日本全体がコロナ禍を乗り越えようとしている年明けの元旦に能登半島地震が起こりま

した。犠牲者の皆様のご冥福をお祈りし、被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。この地震には医療者として、また目を覚まされる思いもいたしました。気を引き締めて災害医療体制のアップデートを行いつつ、端緒についたばかりの現地復興に対して支援の目を持ち続けていきます。

他の先進国に先行して高齢化が進む日本では、増加する医療ニーズと、少子化による医療人材不足のために病院機能の継続が危ぶまれています。効率的な医療提供体制のために医療DX推進が叫ばれ、また持続可能とするための医師の働き方改革もいよいよ今年度から始まります。さらに地域のニーズに見合った病院の機能分化と連携強化に向け、地域医療構想の進化が必要です。

今年度からの第8次医療計画も、この人口構造変化への対策が主眼です。5疾病(がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、精神疾患)、6事業(救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療、小児医療、新興感染症対策)を基本とした医療計画です。五月雨式に降ってくる国からの通達は矢継ぎ早で、その場しのぎの対策を重ねては、身動きができなくなってしまうそうですので、我々

もしっかりと未来を見据え、県立病院として医療提供体制の在り方を自ら適正化していかなければなりません。

歴史的に結核やエイズなど病原体による外因性疾患の多くは、医薬の進歩によって制御可能となってきたため、現代の医療の対象は、高血圧や糖尿病、またがんも含めた内因性疾患が中心となってきました。生活環境の整備、健康教育など公衆衛生的課題も多い中、当院のような急性期救急医療の現場では、高齢者のこれら慢性の内因性疾患を背景とした急性病態である脳卒中、心不全、肺炎、骨折などが多くを占めています。

2023年時点で世界一を誇る日本の平均寿命(男女合わせて84.3歳)、健康寿命(74.1歳)は、医学医療の進歩と社会保障や環境整備の賜物ですが、救命を絶対的価値と考える画一的な医療の時代に替わり、個々の要望を十分に配慮した医療を提供することが求められる時代にもなりました。コロナ禍でウイルス感染した高齢者ご本人やそのご家族に対して、事あるごとにさらなる濃厚治療の希望を問い直す現場のプロセスは、必然とは言え時代の変化を感じます。自分自身も「医療とは、どんな人に対して何をすることが求められているのだろう」という根源的な問いを持つ機会が多くなりました。しかし価値観が多様化したとしても、『医す(いやす)』という言葉が医療の原点を思い出させてくれます。どんな人のどんな疾患に対する何の治療であっても、人の心身の痛みや不安を癒す病院であるべきことを再認識し、今後とも改善を続けてまいります。引き続きご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年4月吉日

# 多職種連携による強力サポートで心不全患者さんのアウトカム改善に努めます。

循環器内科 医長 三浦 正暢

皆さんこんにちは。今回は岩手県立中央病院循環器内科の心不全チームの取り組みについてご紹介させていただきます。

心不全とは、心臓に何らかの構造的、機能的異常があり、そのポンプ機能が低下して、全身の臓器が必要とする血液を十分に送り出せなくなった状態です。心筋梗塞や弁膜症、心筋症など、あらゆる心疾患の終末像とされます。

心不全患者数は高齢化が進むにつれて年々増加しており、当院でも80歳以上の心不全患者さんが増加しています。高齢な患者さんほど、心疾患だけでなく、慢性腎臓病や悪性腫瘍など併存疾患を持つことが多く、また、フレイルや低栄養といった心臓以外の問題を抱えていることも多いです。

近年では、新たな心不全治療薬が複数登場していますが、エビデンスとリアル「ギャップ」がとて大きいため、治療方針で悩むことはむしろ増えています。この「ギャップ」ですが、先に述べた高齢化や併存疾患が多い、といったことに加えて、認知機能障害やうつなどの精神・心理的問題や独居、経済的困窮などの社会的問題により生じています。

このような背景のもと、当科では心不全診療の質や患者さんのアウトカム改善のため、2020年から心不全チームを立ち上げました。メンバーは、医師（主治医、心不全専門医）、看護師（病棟、外来、地域連携、緩和）、理学療法士、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーで構成されています。毎週火曜日15時30分から16時まで、一症例を多角的に検討します。当院オリジナルのカンファレンスシートに各専門職の視点で患者さんの問題点を記載してカンファレンスに臨んでいます。病棟看護師が検討すべき患者さんを選定し、患者さんの抱える問題点を熱く議論しています。コロナ禍で開催できない時期もありましたが、心不全チーム

を結成以降、各職種間のコミュニケーションが増加し、チーム力が着実に向上しています。

患者さんの状態を心不全チームが適切に把握し、患者・家族のニーズに合わせた医療を提供することができた事例を紹介します。心不全カンファレンスにおいて、高齢の末期心不全で救命が難しいと考えられた患者さんを多職種で検討しました。患者・家族の希望を尊重し、心不全治療として取り組むべき「制限」を緩和することにしました。具体的には、蛋白・塩分制限を緩和し、また、好きな食べ物やコーヒーなどの飲食を可としました。また、多くの心不全治療薬を減薬したところ腎機能と栄養状態の改善を認め、リハビリが進み第142日独歩退院となりました。この成功体験は、心不全チーム各メンバーの大きな自信になりました。

今後も患者・家族に寄り添い、入院から外来・地域の医療機関へ、シームレスに心不全診療をつなげる取り組みを強化していきます。

地域で心不全診療を盛り上げていきたいと考えておりますので、ご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

**心不全チーム活動の一環として『心不全チーム通信』を発行いたします。第1号について同封しておりますのでぜひ御一読ください。今後も定期的に発行したいと思っておりますのでよろしくお願いします。**



# 登録医 ご紹介コーナー



今回は、

## 『みやもと内科クリニック』をご紹介します！



みやもと内科クリニック院長の宮本康弘と申します。

岩手県立中央病院の皆様にはいつも急患、紹介患者さんを快く受け入れてくださり、大変感謝いたします。心強い限りです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

当院は2017年11月20日に盛岡市上厨川に開業いたしました。診療科は内科、消化器内科、内視鏡内科、肝臓内科です。専門分野のほか、高血圧、糖尿病、気管支喘息、アレルギー疾患など内科全般を診療しております。直近はインフルエンザのほか、コロナ感染症の流行もあり、発熱疾患の対応もしております。院内にはX線撮影装置のほか、超音波検査、末梢血+生化学検査、上下部内視鏡検査、CT検査を備えております。無理のない範囲ですが、日帰りの内視鏡的大腸ポリープ切除術のほか、肝腫瘍診断には欠かせない造影CT検査も施行しております。可能な限り即日の検査に対応できるよう心掛けております。

当院の特色としては肝疾患の診療です。健診などでも肝機能障害の指摘を受けることが多いと思いますが、その原因は様々です。B型肝炎、C型肝炎はいずれも薬物治療が可能となりましたが、自己免疫性疾患、アルコール摂取のほか、二次性肝疾患など多岐にわたります。最近では生活習慣病に合併した脂肪肝が増えておりまして、肝硬変や

肝臓がんが発症することも判明してまいりました。従来アルコール摂取のない脂肪性肝疾患/肝炎は「非アルコール性脂肪性肝疾患 / 肝炎( **NAFLD : Non Alcoholic Fatty Liver Disease / NASH : Non Alcoholic Steatohepatitis**)」といわれておりましたが、直近は「代謝異常関連脂肪性肝疾患(**MASLD : Metabolic dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease**)」と名称が変更になりました。昨年度の日本肝臓学会総会でも肝疾患の早期治療の指標として**ALT>30**で専門医に紹介するよう新たな提言が「**奈良宣言2023**」として採択されました。肝疾患は中核病院に紹介するイメージがあると思われませんが、初期診断、治療方針まで肝臓内科で対応可能です。治療に悩まれる肝障害症例の方がおりましたらいつでもご紹介ください。かかりつけの先生と併診のうえ、治療させていただきます。

開院以来、かかりつけ医として、来院いただく患者さんは断らずに診察することを信念としております。岩手県立中央病院の皆様をはじめ、すべての医療機関さまと良好な病診連携、診々連携を維持できるよう尽力して参ります。今後ともよろしくお願いいたします。



〒020-0143 岩手県盛岡市上厨川字杉原101-4  
TEL 019-601-3810 / FAX 019-601-3811

診療科目：内科、消化器内科、内視鏡内科、肝臓内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~13:00	●	●	●	●	●	●	—
15:00~18:00	●	●	—	●	●	—	—

受付は診療時間の15分前まで  
水曜日・土曜日の午後、日曜日・祝日は休診

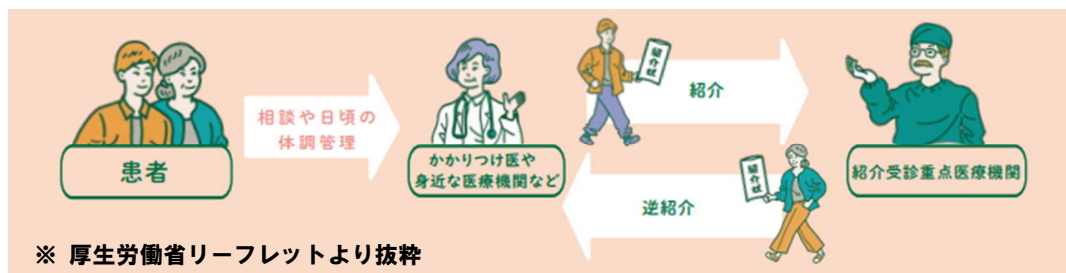
# 当院は紹介受診重点医療機関として指定されました

紹介受診重点医療機関とは、国の医療制度見直しにより新設されたもので、外来機能の明確化・連携を強化し、患者の流れの円滑化を図るために都道府県ごとに決定される医療機関のことです。

## 制度の目的

患者さんが医療機関を受診する際、まずは地域の『かかりつけ医』を受診し、必要に応じて紹介された場合に『紹介受診重点医療機関』を受診、その後状態が落ち着いたら逆紹介を受けて『かかりつけ医』に戻る。このように、患者さんの受診の流れを明確にすることを目的とした制度です。

『かかりつけ医』と『紹介受診重点医療機関』との役割分担を行うことで、外来の待ち時間短縮、適切な検査や治療をスムーズに受けられるようになることが期待されています。



紹介受診重点医療機関について（厚生労働省ホームページ）



## 紹介受診重点医療機関とはどのような病院か

・手術や処置、化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額な医療機器や設備を必要とする外来を行う医療機関

・外来受診の際に紹介状が必要となる医療機関

※紹介状を持たない患者さんが来院した場合は、一部負担金とは別に『選定療養費』が患者負担となります。

岩手県の紹介受診重点医療機関リスト（岩手県ホームページ）



## 当院で徴収義務のある「選定療養費」とは

当院では、他の医療機関からの紹介状を持たずに当院の受診を希望する場合、通常の診療費の他、初診・再診時に選定療養費を徴収することが義務付けられています。

ただし、選定療養費を支払えば受診が可能ということではなく、医療機関の機能・役割に応じた適切な受診をお願いするための制度となっているため、軽症患者さんについては、まずはかかりつけ医を受診いただくようご案内させていただいております。

【選定療養費】初診時・・・7,700円 再診時・・・3,300円

※救急患者等、徴収の対象外となる場合があります

## 患者さんのご紹介について

患者さんの待ち時間を短縮し、円滑な治療が行えるよう、ご紹介いただく際はFAXでの診療予約をお願いいたします。

ご紹介方法については、当院の診療案内またはホームページをご参照願います。

当日のご紹介等、緊急受診が必要な場合や診療のご相談は各診療科医師へ電話連絡をお願いいたします。

当院へのご紹介方法（岩手県立中央病院ホームページ）



今後も当院の役割である高度急性期医療を提供できるよう、皆様に御協力いただきながら運営してまいりたいと存じますので、何卒よろしくをお願いいたします。